

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

秋田市日本伝統音楽「箏曲クラブチーム」

所在地	秋田県秋田市	設立年	2021年
運営主体	有限会社 梅屋		
事業目標	<p>中学校における教職員の働き改革により長時間労働につながる部活動の関わる方の課題と、少子化により中学校生部活動の縮小や廃止などで継続となる中学生が増えている。その中で秋田市の邦楽器文化の向上、演奏技能研鑽の環境整備を行うための活動として、秋田市に【秋田市 日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム】の組織体制を創設。外部の和楽器指導講師によりハイブリッド型(オンラインと対面の併用)を活用することで、日本伝統音楽文化芸術「和楽器」の文化芸術活動の起点とし邦楽器に触れ、生徒自身の成長と生涯の糧となる機会を創発ことと教職員の働き方改革というテーマにより長時間労働の削減と部活動存続を目標として、地域部活動に移行させるために取組むモデルの実証事業を発展的な取組む(生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指す)ことを実施していく。</p>		
きっかけ	<p>趣味の多様化の普及により、「和楽器」の演奏奏者、愛好家など少なくなり手軽に「和楽器」を習う機会や鑑賞する機会が少なくなっており、日本伝統芸術「和楽器」の継承が危ぶまれております。そこでこの度の事業を通じて、中学生が日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会(注1)が「地域和楽器文化倶楽部」を創設して、秋田に持続可能な和楽器の文化芸術活動を支援することで【秋田市 日本伝統音楽「箏(そうきょく)クラブチーム】の組織体制を立ち上げました。</p> <p>(注1) 一般社団法人全国邦楽器組合連合会は、全国の邦楽器にかかわる製造業、卸業、小売業で構成する全国20組合を設置。「邦楽器関連企業及び邦楽の健全たる発展を支援し、社会的地位向上に貢献し、豊かな社会作りに寄与することを目的としております」全国ネットワークをいかし 演奏家と取り組んでおります。</p> <div data-bbox="686 1209 1276 1568" style="text-align: center;"> <p>和楽器の魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ①和楽器造り(突きつめる) ②和楽器演奏(学びとる) ③和楽器体験(感じる) ④多様性(地域・世代) ⑤和文化(想い・感謝) </div>		

<p>団体・組織等の連携</p>	<table border="1" data-bbox="558 504 1356 627"> <tr> <td>①運営及び管理上のコーディネート支援及び指導</td> <td>⑥入会申し込み</td> </tr> <tr> <td>②募集における案内とポスター掲載募集チラシ配布協力要請</td> <td>⑦お琴の指導の機会(場所等)提供・お琴の貸与 ICT活用等実</td> </tr> <tr> <td>③中学校生徒に公募の案内</td> <td>⑧お琴の指導(ハイブリット型)</td> </tr> <tr> <td>④参加募集により中学校生徒が応募</td> <td>⑨OBのボランティア協力</td> </tr> <tr> <td>⑤お琴指導講師と契約(謝礼・指導方法・期間等)</td> <td></td> </tr> </table> <p style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;">新たに秋田市校長会・秋田県音楽教育研究会との連携も出来ました</p> <p>【秋田市 日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム」を創設。「和楽器」の文化芸術活動の起点とし邦楽器に触れ、生徒自身の成長と生涯の糧となる機会を創発ことを目標として地域移行させるために取組むモデルの実証事業を発展的な取組む(生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指す)ことを説明出来ました。</p> <p>1. 秋田市教育委員会、秋田県立教育委員会、秋田中学校校長会(校長会に和楽器地、秋田県音楽教育研究会(秋田中学校音楽先生の勉強セミナーでの講師)</p>	①運営及び管理上のコーディネート支援及び指導	⑥入会申し込み	②募集における案内とポスター掲載募集チラシ配布協力要請	⑦お琴の指導の機会(場所等)提供・お琴の貸与 ICT活用等実	③中学校生徒に公募の案内	⑧お琴の指導(ハイブリット型)	④参加募集により中学校生徒が応募	⑨OBのボランティア協力	⑤お琴指導講師と契約(謝礼・指導方法・期間等)	
①運営及び管理上のコーディネート支援及び指導	⑥入会申し込み										
②募集における案内とポスター掲載募集チラシ配布協力要請	⑦お琴の指導の機会(場所等)提供・お琴の貸与 ICT活用等実										
③中学校生徒に公募の案内	⑧お琴の指導(ハイブリット型)										
④参加募集により中学校生徒が応募	⑨OBのボランティア協力										
⑤お琴指導講師と契約(謝礼・指導方法・期間等)											
<p>活動場所</p>	<p>梅屋楽器秋田店 2F「梅屋スタジオ」と中学生の自宅によるハイブリット型併用指導</p>										
<p>活動概要</p>	<p>児童・生徒が、生涯を通じて日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会が、持続可能な和楽器の文化芸術活動の課題を解決するために「地域和楽器文化倶楽部」を創設しました。その一つが秋田市日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム」です。秋田市日本伝統音楽「箏曲クラブチーム」は和楽器の「箏」を主に児童・生徒を対象として創設した倶楽部です。和楽器の魅力に触れながら『自己表現・協調性・達成感』を学び、生徒さんの健全な育成の一助となることを目的とし、この事業を通して日本伝統音楽及び「和楽器」への興味・理解を深めてもらう機会になることを目指しております。レッスン方式は対面とオンラインレッスンを併用したハイブリッド型レッスンを実施。秋田県初の和楽器を活用した校外型クラブチームです。</p>										

○本事業による成果

【教員の負担感軽減について】

コロナ対策及びICT活用の実証事業として、外部箏指導講師の指導のハイブリッド型レッスンを取り入れたことにより生徒・児童が学校に滞在する時間の短縮に貢献できている。レッスンの主であるリモートレッスンは自宅での受講スタイルの為、生徒の下校から帰宅の時間も早める効果もある。またクラブ活動の従事する時間は現場での片付け、見送り・点検等の時間が無く全員がzoomアプリより退室するのみ。外部和楽器講師も自分の楽器のみを撤収するのみとなり、日報を記帳し終了。生徒自身は自宅にいたので送り迎えなどなく安心と安全であると同時に有効に時間も活用できる。

【学校現場での変化について】

中学校部活動と地域部活動がはっきりと区別する事ができました。中学校内で「和楽器」地域部活動の案内していくことで、地域部活動が認知されると学校教職員の就業時間は明らかに減ると思います。秋田市内の各中学校(21校)に対して校長先生、音楽の先生、中学校生徒に対して和楽器の音色を楽しみながら、自己表現、協調性、クリエイティブ力、自己肯定感、達成感、忍耐力なども学んでいくことが期待できます。次年度より受講生徒の担任への報告などができる仕組み作りをいたします。

【生徒の声】

アンケートの実施は3月下旬に予定している。生徒に対しヒヤリングは数回しましたが、オンラインでの指導方法、時間の活用、和楽器演奏などについて、スマホやPCなど普段から使用しているのでオンラインでの指導に対して楽しみながら、集中できるとの意見がありました。コロナ対策としてオンライン指導ですが、収束後は対面指導と友達と一緒に練習する機会ができればとの意見もありました。他に各個人の受講に使用するアプリの設定が最初上手い出来ないことの相談がありました。テスト期間などこちら側で気を使い曜日変更・お休みを提案するが生徒の自身でベース配分をして受講していた。印象的な事は修了日の際に生徒2名とも講師が小野であったから頑張りたい意欲が出たと感想を述べていた。成果発表として本事業のホームページ<https://uvision.jp/kotoclub/>に動画を3月末に公開予定。

【既存の部活動に変わり得るか】

本来の部活動とは、「興味・関心を持って、集団や個人として目標を持ち切磋琢磨し、技能や記録に挑戦していく中で、人間関係の大切さや楽しさ、喜びを学ぶ」活動である。

生徒一人ひとりの性格等の違いから、技術習得までに個人差が生まれることは当然であり、それに寄り添って中学校の音楽の先生やOBなどの講師は指導していかなければならない。しかし、先生方の働き方改革などにより、校内部活動の時間が制限される中、楽器の準備や片付けなどの時間も含めるとどうしても実際の活動時間が少なくなり、なかなか個々に寄り添いながら指導をすることが難しくなるのが現状だと感じる。そうすると講習会のような一方的な指導になってしまい、本来の部活動の醍醐味や生徒の成長には繋がらない可能性がある。生徒一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添いながら指導していくことが「和楽器」地域部活動として大切であり必要なスキルであると感じた。自宅で行うことで、楽器の準備・片付けの時間は省かれ、オンラインではあるが他の学校の生徒との交流も生まれる。今回外部箏指導講師として参加いただいた小野玲子さんは、音楽療法士の資格をお持ちの他、支援学校での指導の経験も豊富で、そのスキルを生かした良い結果となった。これらの点から既存の部活動に変わり得ることは可能だと思った。小野さんには引き続き指導をお願いする予定。今後、校外化事業に移行するためには現場教職員へのさらなる周知と運営者の地域連携を強化することが必須と思う。

○児童・生徒への指導に関する工夫

【生徒への指導】

演奏指導については当初予定のカリキュラム1/4の日程で成果は出していると感じる。

講師と生徒の対話や個々の課題を乗り越え生徒の成長の伴走をしてきたと思う。生徒の成長の一助となるのが弊社の部活動に対する理解・理念である。ただ生徒同氏が実際に対面での部活動生活ではないところだけが既存の部活動に劣る部分だと思う。

【演奏以外の知識】

今回は時間の都合上、本題の演奏・親しむ事が主になったが、予定していたカリキュラムには、楽器の製作現場とオンラインで繋ぎより理解を深める時間も組み込まれていた。その時間が無かった事は残念に思う。

【講師の研修】

今回は主にZOOMアプリの研修を行った、演奏以外の機械操作や生徒に通信環境の説明がある程度出来るようにする狙い。

【他の団体・グループ交流】

演奏以外の知識と同じだが「都内の大学サークル」と交流計画があった、次年度こそはと思う。

○運営上の工夫

【指導者の募集・研修について】

和楽器指導講師の増員は募集していないが、将来的に生徒が20名を超える傾向がある場合、芸歴・活動歴を参考に増員計画を検討します。令和3年度では、市内演奏者全員に和楽器指導講師の募集を実施し、経験の観点から選出した。演奏に趣きをおいている方と指導を主にしている方様々なのが現状。ハイブリット型のレッスンなので慣れが必要、そのためレッスンへの同席による研修を実施して行きます。

【クラブ活動時間について】

本来の部活動時間を意識して取り組んだ、今回実施して気づいたのは各学校の時間数が違う事と学校から自宅までの帰宅に掛る時間がまちまちな事。この事を加味すると16:30スタートと部活開始時間としては遅めの設定となった。個別の指導があっても2時間以内と規定した。

【生徒募集について】

各学校へ生徒一名ずつ案内チラシを配布、その他学校内掲示ポスターでクラブ案内をした。その他 地元限定のSNS発信・黙食時間を利用してのPR用CDの放送・大手地元企業の休憩室など様々に声掛けとPR活動を行った生徒募集を開始するのが契約後の5月から始めた為、少々出遅れた感があった。

本事業を推進するにあたり「秋田市教育委員会」との連携が必要でした、市内各学校への連絡掲示板への案内や現状報告など多岐に渡りご協力をいただきました。またPTA連合からも後援と激励のお言葉をいただいております。年度終盤には秋田県教育庁との面談も出来ました。また地元企業団体にPRをしサッカーJリーグのイベントステージにおいてクラブの紹介・デモンストレーション演奏など機会をいただく、会社内にて社員・パート就業者へチラシ配布などご協力いただきました。

【コーディネーターの仕事】

この度地域音楽コーディネーターにアドバイスをいただきBtoBの面会の段取りなどご教授いただきました、広報的なアクションの起こし方などレクチャーいただきました。まだ弊社社内の人員の関係もありこの分野に関しては後任・育成までは至っておりませんが、コーディネーター等の外部の関係会社との連携は今後も継続が必要です。

【用具(楽器等)調達、運搬、保管】

運営が楽器店ということもあり用具の貸与・道具の整備・保管に関しては問題がなかった。

【ICT活用】

リモートレッスンははじめ募集の為のSNS発信・SNS広告、また他の団体グループとの交流を可能にした

【関係者全員にとって無理のない仕組みを構築について】

学校での募集活動になり、募集活動自体が現場の負担にならないよう最大限考慮した。学校内での案内だが学校では案内のみとする事で、学校への問い合わせ等がいかないように責任の線引き成文化をした。

指導者に関して本事業に携わる時間を明確にし予定時間内での活動を重視した。

○継続的な運営に関する課題・展望

【自治体・地域との連携】

地元の県教育庁・教育委員会との連携なくしては、事業を推進できない。相談・報告・協力依頼ができる連携をつくる事ができた。生徒募集に関しては各学校へ生徒一名ずつ案内チラシを配布、その他学校内掲示ポスターでクラブ案内する。

【会費への理解】

会費は抑えるたとえ受講を少額にしても「営利目的」とみなされ、生徒募集に非協力的な学校もある。現場の教職員への働き方改革を推進する事業であっても理解を得られない場合があった。事業継続化にあたり会費収入とスポンサー企業・クラウドファンディングなどの併用を検討している。

【芸術団体との連携】

本事業に賛同し若者への日本文化に触れる場所としてPR・告知に協力をいただいた。地元文化団体2団体（一般社団法人 秋田県芸術文化協会・秋田県三曲連盟）から後援をいただいている

【継続に掛る資金】

運営資金調達のため、クラブの取り組みについて地元企業・県外企業に紹介、企業・クラブ共に良い関係性を築ける事を目指す。その為には外部への発信作業が最重要になる。」

【保険・安全確保】

生徒・講師の本事業に関わっている時間に対し保険（一般保険会社）に加入。スタジオに防犯カメラの設備とガイドブックによる災害発生マニュアルを作成、その他感染予防対策として消毒液・空気清浄機を設置した。万が一の緊急連絡フローによる管理責任を明確にしている。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

【事業計画】

①募集計画

エリアを秋田市内中学校から秋田県中学校を拡大する。世代の拡大として小学校4年生～の生徒児童へ募集拡大し、「和楽器」の魅力を発信します。小・中学生に周知できる自治体との仕組みづくりやICTを活用しハイブリッド型レッスンを実施します。リモートの強みを生かし全県の小学生（4・5・6年生）と中学生（1・2年生）に募集を拡大します。生徒募集はポスター、案内チラシ、PRのCDを全県の学校に配布し活動します

②コース新設

小学校コースを新たに新設するため指導要領の確認、カリキュラム構成

③活動経費と地域との連携

本事業をPRします。スポンサー企業・クラウドファンディングを意識したPR活動をいたします。積極的に発信して「和楽器」の素晴らしさを地域の企業、SNSなどにアピールします、協賛いただけるような仕組みづくり。またイベントなどに参加し地域活動にも参加します。

④教育機関との連携

文化庁と取組活動等について情報共有化と地域自治体との関係を強化します。

地元県教育委員会、市教育委員会、校長会、各小・中学校との連携により情報共有化を推進し、改めて本事業の主旨であるクラブ活動の校外化の意味（働き方改革）を周知します。

年度中にも教育委員会、校長会、小・中学校と定期的に情報共有の機会を設け、継続的に推進活動します。日本の伝統音楽「和楽器」を楽しむ地域活動環境づくりを推進します。クラブは学校・学年を超えた風土づくりと他の学生団体との交流を実施しあわせて小・中学校音楽教員を対象に、「最近の和楽器実情」をテーマにセミナーなどを実施できる機会をつくり、和楽器の魅力を学校現場から伝えます。

参加者 (予定人数)	本年度対象学年：中学2・3年生 人数：2名 今後の予定人数：小学4・5・6年生、中学1・2年生（各コース10名）計20名
募集方法	チラシ・ポスター製作、各小・中学校へ配布、掲示。校長会にて説明。Facebook、HP掲載紹介。地元企業・プレスリリース
指導者	箏指導小野玲子 生田流箏曲清絃会 師範 1名 PRイベント等は協力者2名を追加

移動手段	対面レッスンは保護者による送迎、オンラインは自宅で受講
活動費用	指導者謝金 1回/2,300円(1時間30分) コーディネーター6ヶ月/100,000円 楽器借用料1面/2,000円 教材費1名/8,000円 アプリ使用料1年/22,110円
スケジュール	スケジュール……2回/週 ・8回/月 ・80回/年間 【小学生コース40回】【中学生コース40回】 【指導時間】:90分/回 16:30~18:00(予定)2022年5月~2023年3月
保険加入等	傷害保険 講師1名・クラブ生徒3名

琴の魅力、伝えたい



秋田市 梅屋楽器店

秋田市中通の梅屋楽器店 社長の梅原さん48歳は年(梅原史社長が、市内のほとんどの秋田市の中学校、中学1、2年生を対象に、を各、音楽室にある和楽器オンラインショップを始める、等のメンテナンスを行ってきや教材一式を無料で貸し出した、子どもたちが和楽器とし、ウェブ会議システムで、接する最初の場面は音楽の授業の「om」(オム)として、その指業、その耳にする音の第一歩を、印象を刻みだす「オム」

「通常の営業が難しい中、新しい挑戦をしたい」と語る梅原さん

中学1、2年生対象
ウェブ稽古開始へ

また、その魅力を伝え、日品を買ってくれた人が増え、増やそうと、今回の稽古を企画した。このまのよう営業が難しい中、情通通信技術(1)「新しいオンラインも、OCT」を活用して新しい事業に挑戦したい」と梅原さんは話す。

このオンライン稽古は、部活動の指導を地域に移行させるためにも有効としている。琴の発表会延期や中止など、活動の停滞を懸念する、楽器のメンテナンスに訪れ、活動再開の文化活動の受け皿として、文化庁の事業に採択された。初回は、全員の半分に割り上げ、昨年4月に始めて、現在メンバートを集めている。稽古は週一回、琴などの教材一式は梅屋楽器店が貸し出す。問い合わせは梅原史社長(018-833-7017)まで。

オンラインショップ経由商

地元新聞(魁新報社)



ポスター掲載(場所:公共施設)



学校PR訪問1(秋田市)



秋田県音楽教育研究会(秋田市)



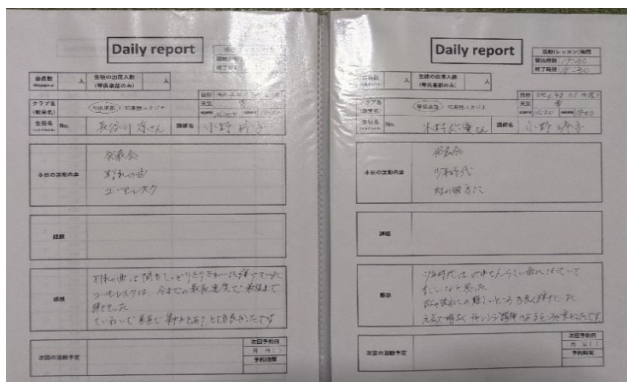
学校PR訪問2(秋田市)



ZOOMアプリオンラインレッスン



PR CD収録



講師日報



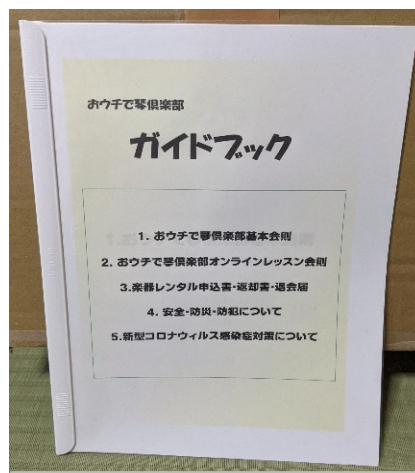
クラブPR活動 (夏休み・リーグ)



掲示用ポスター



修了証



クラブ概要・規約